

平城宮東方官衙地区の調査(平城第406次)

昨年の12月から今年の5月にかけて、平城宮の中枢部にあたる東区朝堂院と東院地区にはさまれた東方官衙地区の発掘調査をおこないました。

本調査地の周辺では、通称磚積官衙(遺構展示館)、推定宮内省、造酒司などの役所の存在が明らかになっています。また、宮内省と磚積官衙の間には、平城宮のなかでもとりわけ重要な基幹排水路であった東大溝の存在も確認されています。今回は地下探査もおこないつつ、幅6m、長さ100m内外の調査区を縦横におよぼした試掘的な発掘調査です。

発掘調査の結果、東大溝の東側には、東西約50m×南北約120m以上の役所の区画が存在し、少なくとも2時期の変遷があることが分かりました。また、この区画は東西築地によって仕切られていたようです。区画内の北半には、桁行2間以上、梁行1間の掘立柱建物1棟、桁行2間以上、梁行2間の礎石建物1棟が確認され、区画内の南半には、礎石建ちの大型基壇建物を中心とし、その南に、桁行10間以上の南北に長い基壇建物を対称に配置していたことがわかりました。

さらに、東大溝の西側、東区朝堂院との間では東西に庇を付けた桁行2間以上、梁行2間の大型基壇建物が検出され、この地区にも役所が営まれていたことが確認できました。

あわせて、これら2つの役所の間を流れていた東大溝は今回の調査地でも確認され、300点を超える木簡が出土しています。

東方官衙地区はこれからも継続的に発掘調査をおこなっていきます。今後の調査の進展にどうぞご期待ください。
(都城発掘調査部 粟野 隆)



調査区全景(南東から)

西大寺薬師金堂の調査(平城第422次)

今回の調査は、奈良市西大寺小坊町にある淨土院境内において実施しました。淨土院境内はかねてより西大寺薬師金堂の基壇跡と考えられてきました。

今回はまず南北3m、東西15mの調査区を設定し、後に中央部を北に拡張して調査を行いました。調査は4月16日より開始しました。

表土を除去すると、薬師金堂の基壇面を確認することができました。そしてその基壇を掘り込んで、凝灰岩を2個据え付けた穴が東西に2基並ぶ状況を確認することができました。これらの穴は薬師金堂の礎石を据え付けるための「壺掘地業」の痕跡と判断できます。これらの穴の西側でも2箇所で大きな抜取穴を確認しました。これらの抜取穴と地業の痕跡がほぼ15尺等間で並ぶことから、これらが薬師金堂の身舎の痕跡にあたると想定できます。さらに、身舎の北側においても礎石の据付穴および抜取穴を2箇所で検出しました。身舎との柱間は12尺で、北側の庇にあたると考えられます。これらの庇の据付穴の中にも、凝灰岩が確認できました。なお、南側の庇に関しては大きく基壇が削られていたため、痕跡を確認することができませんでした。

奈良時代に記された『西大寺資財流記帳』によると、薬師金堂は東西119尺、南北53尺の非常に大型の建物と記されていますが、今回の調査で初めてその詳細な実態を明らかにすることができました。

(都城発掘調査部 林 正憲)



薬師金堂・身舎北側柱列の状況(西から)